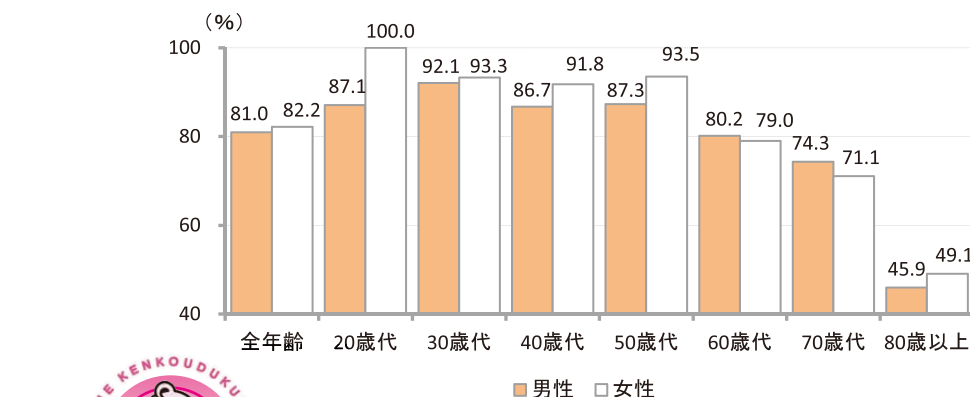


8 健康、健診等に関する状況

◆健康に関すること

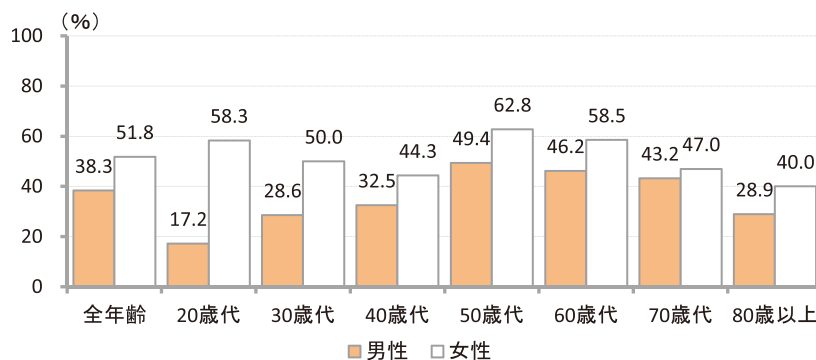
今の健康状態を「健康である」、「どちらかといえば健康である」と感じている者の割合は、男女とも8割を超えていたが、70歳代以上になると減少傾向にあり、80歳代では半数以下であった。
体重を週1回以上測定している者の割合は、すべての年代で女性の方が高かった。
メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防や改善のために、継続的に食事の改善や運動を実践している者の割合は、男女ともに70歳代が最も高かった。

【図107】健康状態の自己評価(「健康である」、「どちらかといえば健康である」と回答した者の割合)
(性・年齢階級別)

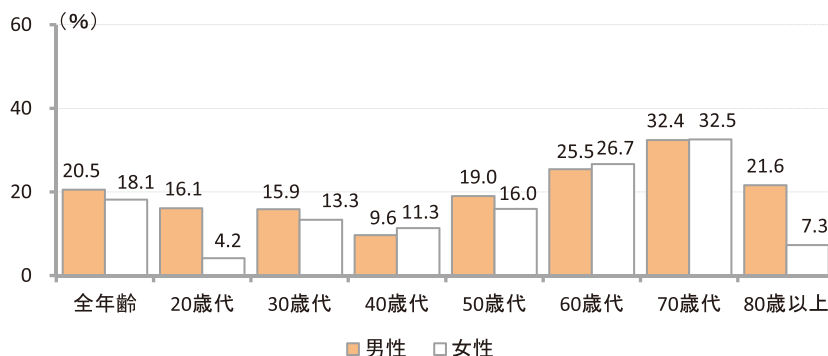


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
生活の質(自分で健康と感じている人の割合)
目標値(平成35年度) : 79.8%(20歳以上、平成22年度)から増やす
65.1%(65歳以上、平成22年度)から増やす

【図108】体重を週1回以上測定している者の割合(性・年齢階級別)

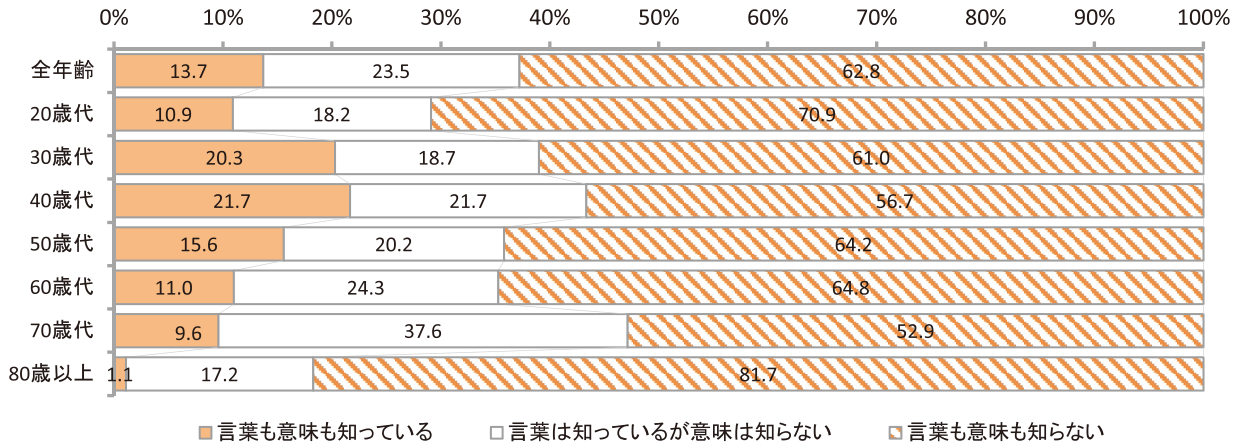


【図109】メタボリックシンドロームの予防と改善を目的とした食事改善と運動を継続的に実践している者の割合(性・年齢階級別)



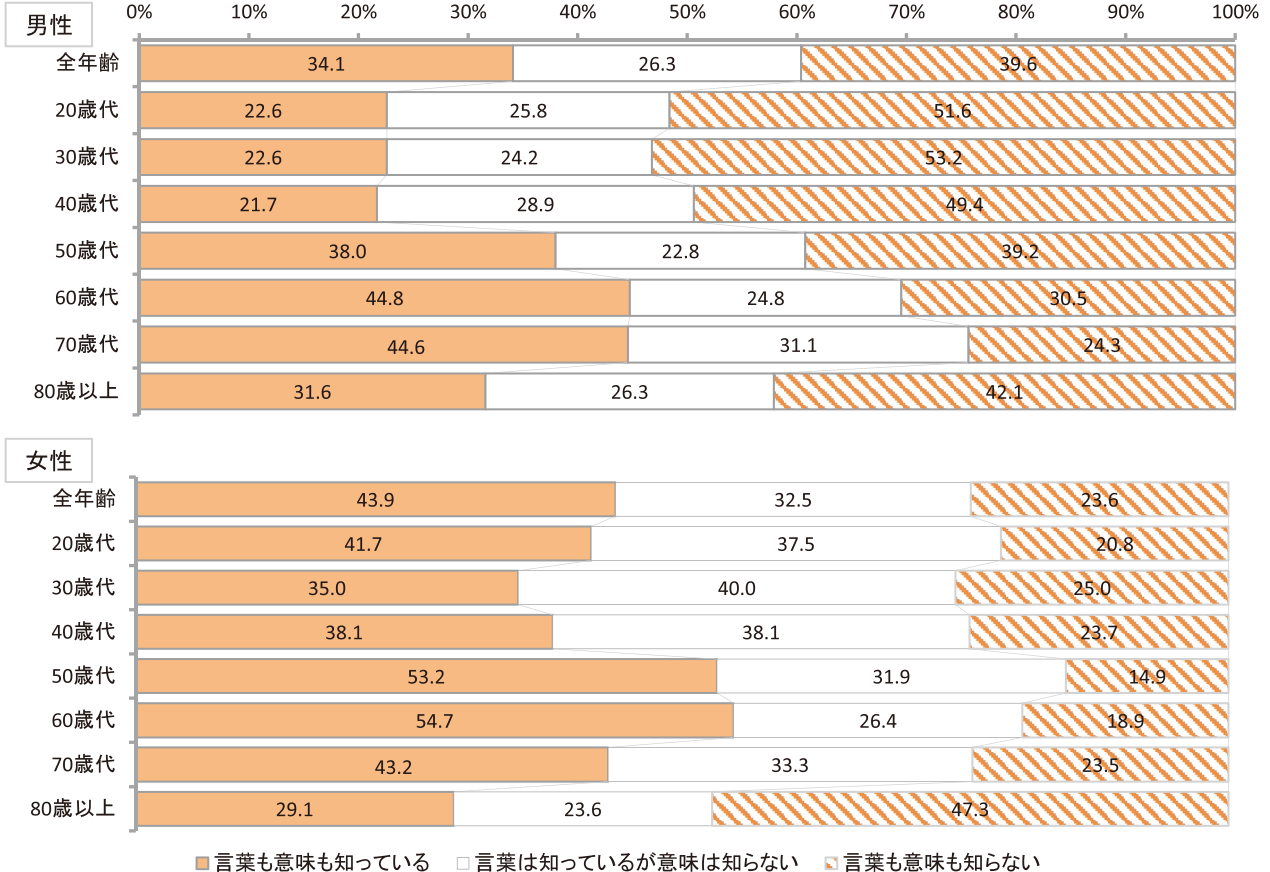
COPD(慢性閉塞性肺疾患)について、「言葉も意味も知っている」と回答した者の割合は13.7%であり、20歳代、60歳代以上の認知度が低かった。
健康寿命について、「言葉も意味も知っている」と回答した者の割合は、男性34.1%、女性43.9%であり、70歳代以上を除いて女性の方が高かった。

【図110】 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(年齢階級別)



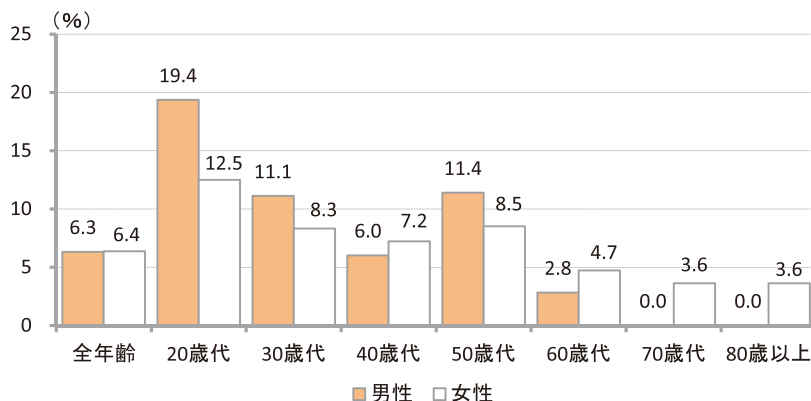
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
COPDの認知度の割合
目標値(平成35年度) : 80%

【図111】 健康寿命の認知度(性・年齢階級別)

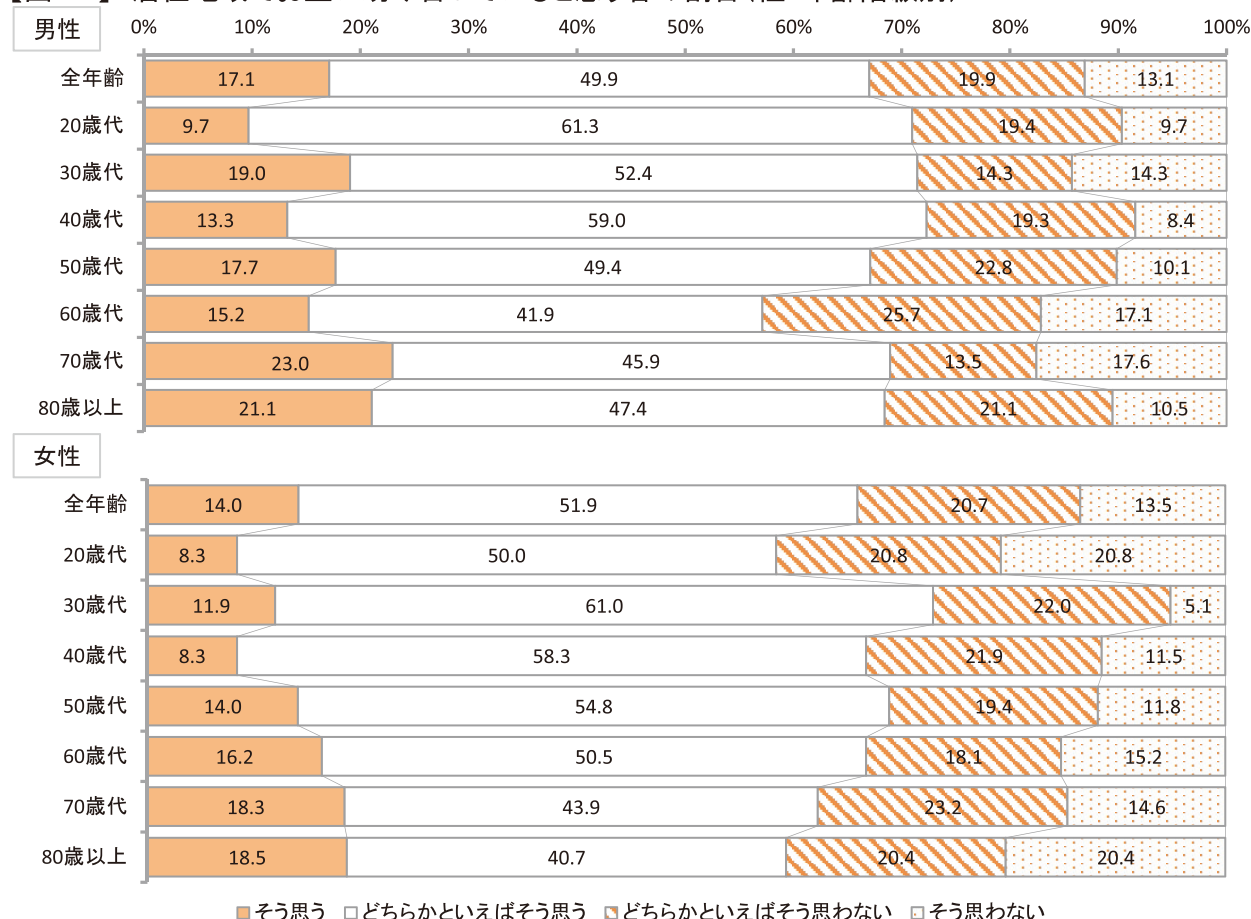


健康や医療サービスに関係したボランティア活動に参加している者の割合は、男女ともに20歳代が最も高かった。
居住地域でお互い助け合っていると思う者(「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した者)の割合は、男女ともに6割を超えていた。

【図112】健康や医療サービスに関係したボランティア活動に参加している者の割合(性・年齢階級別)



【図113】居住地域でお互い助け合っていると思う者の割合(性・年齢階級別)

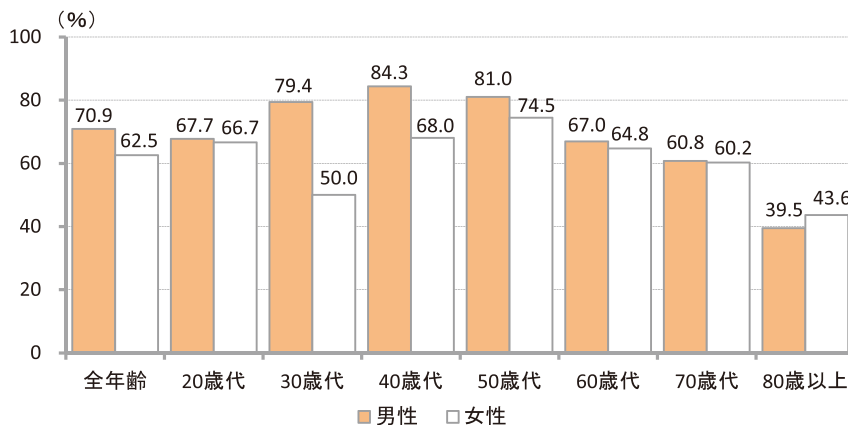


(参考)第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
居住地域でお互い助け合っていると思う県民の割合
目標値(平成35年度) : 増加させる(※現状値なし)

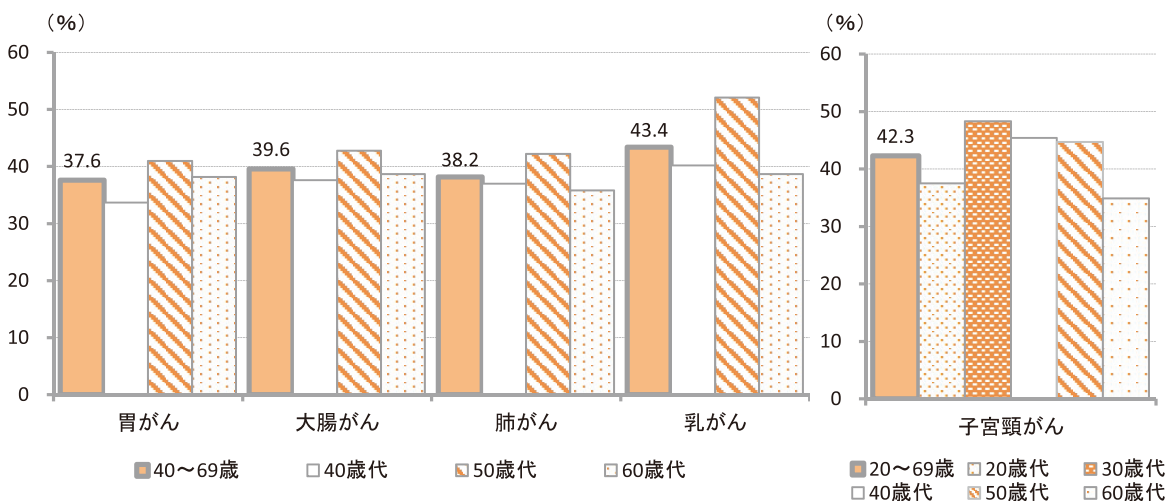
◆健診等に関すること

この1年間に健康診断を受けた者の割合は、男性70.9%、女性62.5%であり、30歳代、40歳代では、男女の差が大きかった。
 この1年間にがん検診を受けた者の割合は、男女合わせて胃がん37.6%、大腸がん39.6%、肺がん38.2%であった。
 この2年間に乳がん・子宮頸がん検診を受けた女性の割合は、乳がん43.4%、子宮頸がん42.3%であった。

【図114】 この1年間に健康診断を受けた者の割合（性・年齢階級別）



【図115】 この1年間(乳がん・子宮頸がんは2年間)にがん検診を受けた者の割合(男女計(※乳がん・子宮頸がんは女性のみ)、年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
がん検診の受診率

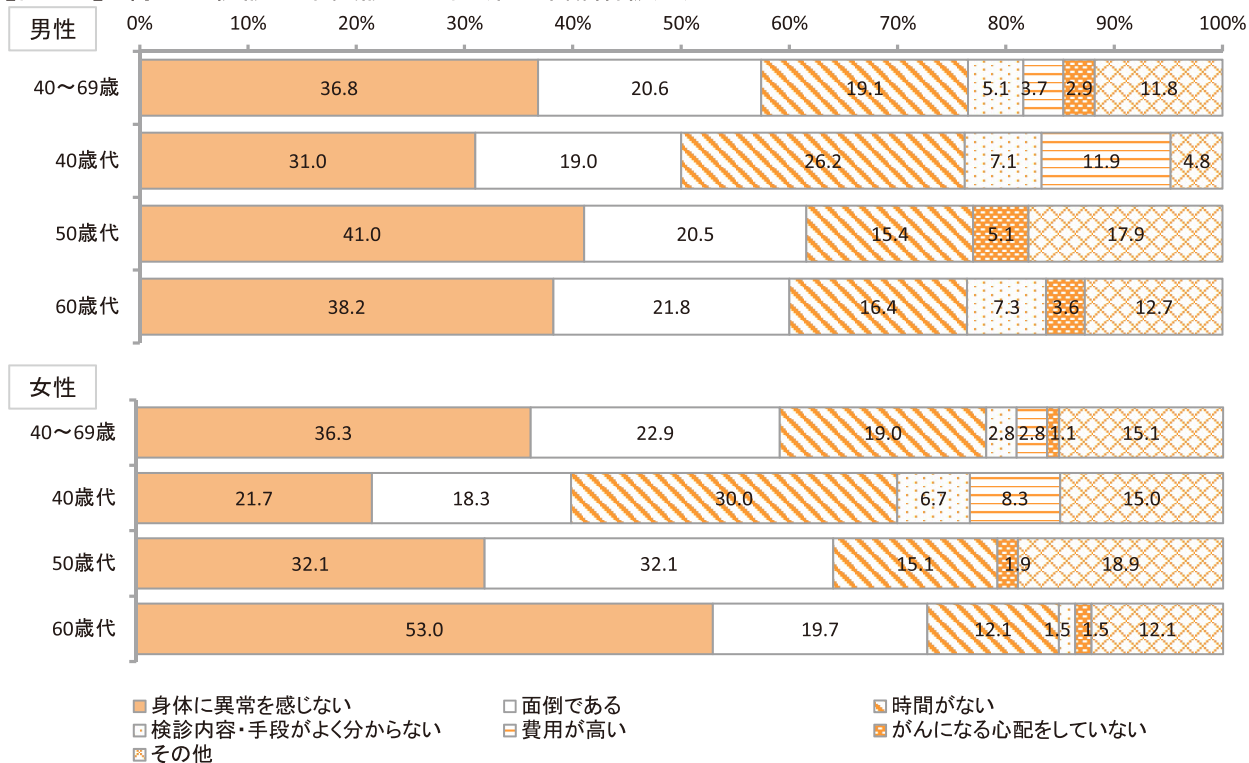
目標値(平成35年度) : 胃がん・大腸がん・肺がん 40%
乳がん・子宮頸がん 50%

※がん検診の受診率は、40歳から69歳まで(子宮頸がんは20歳から69歳まで)で算出

※胃がん・大腸がん・肺がん検診は年に1回、乳がん・子宮頸がん検診は2年に1回の受診を推奨

胃がん検診の未受診の理由は、「身体に異常を感じない」が男女ともに最も多く、「面倒である」が続いた。40歳代女性では、「時間がない」が最も多かった。
子宮頸がん検診の未受診の理由は、「身体に異常を感じない」が最も多く、「時間がない」が続いた。特に、20歳代から40歳代では、「時間がない」が最も多かった。

【図116】 胃がん検診の未受診の理由(性・年齢階級別)



【図117】 子宮頸がん検診の未受診の理由(年齢階級別)

